



震災復興を支援する「小原木タコちゃんプロジェクト」について語るマルティナさん(京都市右京区・京都外国語大)

タコの編み物製作 住民に落ち着きも

京外大講師が支援報告

京都外国語大のドイツ語講師、梅村マルティナさん(53)が17日、京都市右京区の同大学で講演し、編み物で東日本大震災の被災地復興を支援する「小原木タコちゃんプロジェクト」を紹介した。

「小原木タコちゃん」はタコ型の縫いぐるみや飾りで、マルティナさんが宮城県気仙沼市の小原木中避難所(当時)に送った毛糸から生まれた。震災で仕事を失った女性たちが編み、京都の手作り市などで販売されている。

マルティナさんは「タコは港町の気仙沼にびったりで、復興の象徴。8本足で幸せもいっぱいつかめる」と説明し、現地との縁をつくった編み物について「気持ちが悪く」と心理的な効果も紹介した。被災住民のブログにメッセージを書き込むことも支援の形だといひ、「みんな何かできる。東北を忘れないで」と訴えた。

プロジェクトの詳細はブログ「小原木タコちゃん」で。

(松田ゆい)